



NPO法人 府中かんきょう市民の会会報
 2022年新年号 1月12日(水)発行 通巻83号
 発行人 小西 信生 (府中市四谷6-19-20)
 TEL 080-5646-5524
 編集人 葛西 利武
 (府中市市民活動センタープラッツ登録団体)

謹賀新年



国から「エイジレス顕彰」を受けました



竹内章相談役／市長室にて 11月10日撮影
 高野律雄市長を中央に、左から小西信生理事長、竹田勇事務局長、高橋和夫事務局長

ほとんど知られていないこと、スケジュールなどがタイトで応募が難しいことなどがあるようです。

府中市で私たちは2回目の顕彰

府中市内の団体としては当会が初の受賞のようですが、サークル穂波の元代表で、当会の会員でもあった黒崎啓さんが2013年に個人としてエイジレス・ライフ顕彰を受けています。残念ながら黒崎さんは2017年に病気でお亡くなりになっています。

応募の経緯

今回の私たちの応募については、新型コロナウイルス感染対応のため、当会の活動をそれなりに制限していた時期でもあったので、定期総会の準備時期とは重複しましたが応募に時間を割くことができました。

活動内容についても、コロナ前と、ウィズコロナで状況を書き分けて文章を作成しました。

今後、活動の輪を広げたい

国(内閣府)から2021年9月15日付けで顕彰を受けました。当会へは9月17日に、事務所(理事長宛て)にメールが届き、10月中旬には顕彰状と盾が届きました。顕彰状はB3サイズ桐の御紋入りのもので、内閣府の大臣名義でした。

正式名称は令和3年度「エイジレス・ライフ実践者及び社会参加活動事例」※(以下エイジレス顕彰と略)の団体としての社会参加活動事例顕彰です。

国から私たち府中市民の会が顕彰を受けた理由は、
 1、会員みなさんが、環境保全やまちづくりといった活動を市民協働の考え方で1999年の当会発足以来、継続して行っておりその活動が国から顕彰に値すると評価された。
 2、20年以上の時間の経過で、活動する私たち会員の年齢構成が上がり、今では7割が65歳以上の高齢者であることなどが挙げられます。

会員の高齢化が進むことは、各会員やご家族の高齢化にともなう健康問題もあり組織として必ずしもいいことではないとされていますが、会員みなさんが協力しながら活動を続け、多くの方が辞めずにきた成果といえます。

エイジレス顕彰の基準(団体)

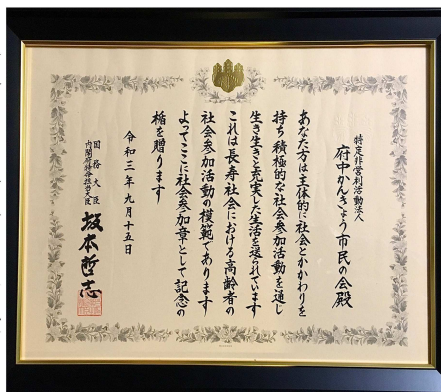
現在の高齢化社会の中で、社会参加活動を行なっている団体で以下の条件を満足する団体です。

- メンバー数:10人以上
- 高齢者の割合:50%以上
- 活動実績:3年以上
- 活動の推薦:高齢者支援の公益法人などや自治体
 ※当会は「東京のあすを創る協会(以下、東創協)」の推薦を受けて応募しました。

今年のエイジレス顕彰は日本全国で個人50人、36団体

東創協からの推薦で顕彰を受けた団体は、今年は私たち府中かんきょう市民の会だけでしたが、東京都所在の顕彰団体は他に4団体あり、市・都経由の推薦が2団体、高齢者支援の財団法人からが2団体でした。

高齢化が進んでいる全国の状況を見れば、エイジレス顕彰の基準に合致して顕彰を受けるに十分な活動をしている個人や団体はもっと多いはずですが、この制度そのものが



写真の高橋和夫が手にしている「顕彰状」



同じく、竹田勇が手にしている「盾」

当会が、エイジレス顕彰を受けたことのPR情報は会報でも会員やまわりの方々にお知らせしていますが、こうしたおめでたい話は、府中市の広報ふちゅうでも2021年10月21日号でお知らせし、市長への報告も25日に行ないました。また市のホームページでもお知らせしています。選考にあたった国の外郭団体である「あすの日本を創る協会」の機関誌にも取り上げていただく予定です。

今後、こうした顕彰を受ける団体や個人が増え、府中市民の方々にも市内で活動している市民団体にはいい活動をしているところがあると認識していただき、活動の輪がさらに広がることを市民協働の面からも期待したいと思います。

(小西信生)

※エイジレス顕彰:内閣府HPより引用

エイジレス・ライフ(年齢にとらわれず自らの責任と能力において自由に生き生きとした生活を送ること)を実践している高齢者の事例(「エイジレス・ライフ実践事例」)や、地域で社会参加活動を積極的に行っている高齢者のグループ等(「社会参加活動事例」)を募集し、その中から内閣府として紹介する事例を決定し広く紹介することにより、国民の参考としていただくことを趣旨としています。

2021 オンライン&会場開催

第7回「府中市民協働まつり」に参加

第7回「府中市民協働まつり」チラシ(抜粋)



企画委員会にZoomとリアルで参画

新型コロナウイルス感染状況が落ち着いてきた11月1日、「市民協働まつり」がスタートした。

4月から企画委員会がスタートしたものの、感染者数が増大した7月、8月の「東京オリンピック・パラリンピック」時には今後どうなっていくのか、今年もやむなくオンラインのみの開催にするのか、会場開催はどのようにすればできるだろうかなど思案しながら、一歩前進させたい思いを胸にぎりぎりの11月4日(第3回実行委員会)を待って『オンライン&会場』開催の両方で行なうこととした。

当会から企画委員会に理事長の小西信生がZoomとリアル参画(計10回以上)、実行委員会には理事の浅田多津子がZoom参加(計4回)した。

昨年9月に内閣府(国)から受けた 「社会参加章」顕彰状と盾を披露



ブース展示物、動画上映(奥)、顕彰状と盾(手前テーブル上)

恒例のオンラインでの「今日の団体クイズ」(11月7日参加)には、市内の農地の減少現状についてクイズを出し、10年間で20%減少したことを知らせた。

27日、28日会場開催の当日には、プラッツ5、6階の会場に30団体が参加した。当会も27日のみ会場参加をし、「身近な『環境保全活動』に参加しませんか!」をテーマに、環境を考える機会を広げ、活動する仲間を増やすこと、他団体との交流や連携を進めることを目的とした。

活動パネル展示と動画上映(椅子設置)を行ない、昨年9月に内閣府から受けた「社会参加章」顕彰状と盾を披露

した。当会独自のアンケートには、活動に興味を示して頂いた団体などもあり、来年度に向けて励みになる回答を寄せて頂いた。

当会ブースには担当者含め計86名の来場があった。各階に来た全来場者には検温、手消毒、マスク着用を促し、それぞれの会場では密を避けるために定員数の半分の入場者数とし、両日計約4,700名の来場があったとのこと。

28日には、5分間オンラインで活動を紹介する「ライトニングトーク」に参加した(写真)。



オンライン配信、5分間「ライトニングトーク」/左から小西信生、吉武孝三郎、村崎啓二

市民協働ポータルサイト「プラnet」※の活用も

12月6日に最後の第4回実行委員会が開催され、来場者、ボランティア、実行委員などに向けたアンケート集計結果の報告がされた。会場開催の当日は、親子での参加や40代の来場者が一番多かったとのこと。「市民協働まつり」のTwitterやFacebook、Instagramのカウント数も報告されるなど世代の違いを感じる。グループごとに分かれて今後に向けての意見交換を行ない、他団体からはこれらのSNSで知る機会や交流が増えたと聞く。

当会にとってはなかなか手が付けられない苦手な分野だ。これまで行なってきたHpや会報・わき水通信発行、動画作成の更新作業に加え、今後は市民協働ポータルサイト「プラnet」に随時イベント内容を掲載・更新することや、この市民協働まつりをきっかけにジャンルの違う他団体との交流なども視野に活動を広げていきたい。

※「プラnet」とは、府中市市民活動センタープラッツが運営し、「つながる生み出す」市民活動を推進するポータルサイト

※一面記事(国から「社会参加章」顕彰状と盾の拡大写真も)ご覧ください。



各会場内は定員数の半分とした

(浅田多津子)

ミニ写真集

西府崖線 秋の保全活動4景



- ①秋の清掃活動と(落ち葉の銀行用)落ち葉掃き／2021年
11月6日(土) 9:30～11:15 晴 会員9人+市民3人=計12人
写真は清掃作業終了後の記念撮影
※落ち葉の銀行／登録した市民団体が公園や広場を清掃し
収集した落ち葉を市が回収して腐葉土にし、翌年落ち葉の
収集量に応じて腐葉土を配布するシステム。
- ②「日新町一丁目市民花壇」苗植え／2021年11月29日(月)9:30
～11:30 晴 会員6人 パンジー41株とノースポール34株
- ③巣箱管理／2021年12月4日(土)9:30～11:30 晴 会員7人
6個の巣箱中、4個に営巣痕 ※写真に虹がかかっている。
- ④営巣痕の一つ／シジュウカラの巣跡に数匹のヤモリ

アメリカザリガニ



侵略的外来種への適切な方策

昨年8月、環境省の専門家会議にてアメリカザリガニとミドリガメ(ミシシッピアカミミガメ)について、法規制を視野に規制の必要があるとの提言が出され、情報が錯綜したのは記憶に新しいです。



わき水まつり 生き物探検(府中用水) 中央の黒シャツが筆者 =2019年7月21日

特定外来生物へ指定されると、飼育や生きたままの運搬・譲渡が禁止されます。本種も早急に指定するべきという考えもある一方、個人の飼育については規制対象外となるような新しいカテゴリーを設けるアイデアもあります。

小学校低学年からの教育も必要か…

また提言のなかでは、「特に小学校低学年において侵略的外来種であることの認識なくアメリカザリガニ等が飼育されている事例が多いことを踏まえ、より早期からの教育との連携が必要である」とも指摘されています。しかしながら、「アメリカザリガニを見つけたらその場でつぶしなさい」と教えるかといえ、そうではないはず。

豊かな生態系によって今日の生活が成り立っていることを忘れず、増えすぎた生物への適切な方策を見つけることが肝要と思います。

(わき水まつり「用水の生き物探検」講師／近藤雅人)



府中町「農園塾」まもなく3周年



農作業にいそしみ、収穫した聖護院(へしよ)ごいん大根を手にしている塾生たち

府中町「農園塾」は、府中町3-7、桶久保公園となりの約400㎡の農地を使わせていただいて、会員の農業技術の向上を目的に活動しており、野菜類を作っているものです。

現在参加している会員は14人、3年間で栽培してきた野菜は春にはジャガイモ・タマネギ、夏にはトマト・ナス・キュウリ、秋にはキャベツ・ダイコン・サツマイモ等々30種類前後、ほぼ年間を通じて活動しています。

新型コロナウイルス感染症対応で、屋内での活動は原則自粛、不特定多数を集めた事業も自粛してきた当会の活動のなかで、当農園塾は密にならないこと屋外での活動ということで2019年春以来継続して活動しています。

具体的な活動は、各自の登校のほか毎週金曜日を原則として全員登校日とし、朝9時から2時間程度汗を流しています。

A・B2つのグループに分け7人共同で作業をする共同区画と個人別に自由耕作する個別区画でそれぞれ工夫を凝らして生き活きと自慢の成果物を収穫しております。

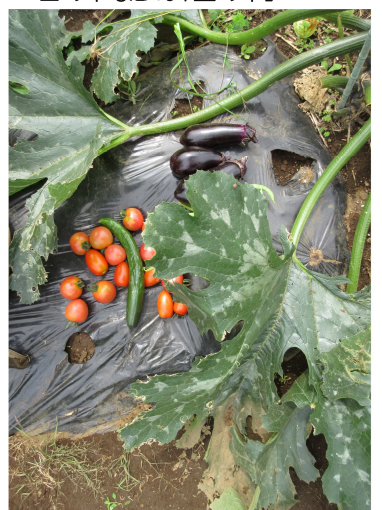
訃報とボランティア保険

2021年4月15日当会の府中町「農園塾」内での作業中、会員の寺内とし江さんが突然倒れ亡くなりました。後の検視でクモ膜下出血とのことでした。72歳でした。ご冥福をお祈りいたします。

寺内さんは2019年春から当会賛助会員となり、府中町「農園塾」発足以来活動され、農園塾の会計を務めていました。

また、亡くなった理由は私傷病でボランティア保険の保険金の対象ではありませんでしたが、亡くなったときに当会の活動中で、場所も農園塾内だったため、見舞金の対象となり、30万円が支払われたことをご報告いたします。(鈴木利雄)

トマト、ナス、キュウリなどの山の幸ならぬ「塾の幸」



多摩川の自然にふれて

再開！ 秋の「四谷小学校」環境学習

環境学習 実施報告／当会会員 金田邦男

府中市立四谷小学校の環境学習を次のように行った。

- 対象／四谷小学校 3年生 4クラス 130名
 - オリエンテーション／10月21日(木) 講師1名
 - フィールドワーク／10月28日(木) 29日(金) 講師延べ15名
- フィールドワークでは、クラスごとに2時間ずつ使い、昆虫・野草・樹木の3班に分かれ、それぞれの講師のもとで観察を行った。

私が担当した樹木班では、西府緑地公園にみられる5種類のどんぐりの観察、秋に紅葉(黄葉)が生じる仕組みケヤキとエノキの見分け方、クスノキなどの樹木の名前の成り立ちなどを学んだ。説明を受けたことを丁寧に記録したり、日本一長い植物の名前を憶えたり、子どもたちの真剣な眼差し、一生懸命な様子が印象に残った。

以下は、四谷小の先生方からの感想です。

講師の話に興味津々

「フィールドワークってなあに？」子どもたちと楽しみにしていました。「虫かごもってきていい？」「どんぐりたくさん見つかるかな？」「河原においてもいいの？」目を輝かせながら互いに話していました。

活動中は、地域の先生の話に興味津々。学校に帰ると教えていただいた植物や昆虫、木の実を自分のパソコンで検索し、他グループの子たちと情報共有。まさに実物に勝るものはないと実感しました。



樹木班／金田邦男講師(中央)のお話メモをとる児童たち

素晴らしい教材が、こんな身近に！

子どもたちは、校外での学習が1年生のとき以来ということもあり、どのグループも積極的に活動に参加していました。樹木グループの子は、「食べられるどんぐりを教えてもらったんだよ」と嬉しそうに話していました。

野草グループの子は、頂いた荻などを嬉しそうに家に持ち帰りました。昆虫グループの子たちは体中にくっつき虫がついてしまうほど虫とりに夢中になっていました。

こんなに素晴らしい教材が身近にあることに改めて気付かされました。このような機会を設けていただき、本当にありがとうございました。



野草班／ツバメのねぐらになるヨシ(※)を手にしてお話 田中香代子講師

※元々の名は葦(アシ)というが、アシの音が「悪し」に通じるので、今では「ヨシ(善し)」と呼ぶことが多い。

やっと、校外学習が実現！

待ちに待った校外学習。コロナ感染予防や悪天候のため、予定していた校外学習が中止や延期になり、やっと校外学習が実施できました。

昆虫班、野草班、樹木班に分かれ学習しました。実際に多摩川の河川敷や緑道を歩いて、本物に触れ合うことはどんな学習より大切だと思います。子どもたちには、今後の多摩川学習に、この経験を生かしてほしいと思っています。貴重な経験をさせていただいた「府中かんきょう市民の会」の方々に深く感謝申し上げます。

夢中になって虫とり

本やタブレットを用い、意欲を高めて待ちに待った当日。一回目は雨で中止になり、残念な表情。しかし、待った分期待は膨らみ、朝から晴天であることに喜びを隠せずいました。

樹木グループでは、どんぐりの種類を沢山教えてもらい、大事そうに持って帰っていました。虫グループでは時間を忘れ、夢中になって虫とりをしていました。嬉しそうに捕った虫を見せていました。野草グループでは、荻の触り心地に驚くなど秋の自然を感じていました。充実した一日となりました。



昆虫班／コオロギやカナヘビ見つけた！